



## サーバグループの設定

---

- [「サーバグループの一覧の参照」](#)
- [「サーバグループの追加」](#)
- [「サーバグループの編集」](#)
- [「すべてのサーバグループの一般的な設定の参照と編集」](#)
- [「サーバグループ要素の参照と削除」](#)
- [「サーバグループ要素の追加と編集」](#)
- [「SIP ping ネットワーク接続の一覧の参照」](#)
- [「SIP ping 設定の追加」](#)
- [「SIP ping 設定の編集」](#)

## サーバグループの一覧の参照

サーバグループでは、Cisco Unified SIP Proxy システムが各ネットワークで交信する要素が定義されます。

### 手順

**ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [Groups] を選択します。

[表 5](#) に説明されているフィールドが含まれる、[Groups] タブが強調表示された状態で、[Server Groups] ページが表示されます。

表 5 [Server Groups] ([Groups] タブ) フィールド

パラメータ	説明
State	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[New] : 新しいレコード。コミット時に、アクティブな設定に追加されます。</li> <li>[Modified] : 変更されたレコード。コミット時に、アクティブな設定になります。</li> <li>[Deleted] : 削除されたレコード。コミット時に、アクティブな設定から削除されます。</li> <li>[Active] : アクティブなレコードとアクティブな設定。</li> </ul>
Name	このサーバグループの名前。 <b>(注)</b> サーバグループ名は、発信要求の SIP URI に挿入されます。Cisco Unified Communications Manager などの一部のデバイスでは、処理前に要求の URI が検証されますので、この機能を使用できるようにするため、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) を使用してエンドデバイスを設定する必要があります。
Load Balancing Scheme	すべての SIP サーバグループのロード バランス アルゴリズムを設定します。 次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[global] (デフォルト)</li> <li>[call-id] : call-id によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。</li> <li>[request-uri] : 要求 URI によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。</li> <li>[to-uri] : To ヘッダー URI によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。</li> <li>[weight] : 同じ q-value を持つ他の要素の重みに対して、その重みに比例して要素が選択されるよう指定します。この値を適用できるのは、重み付けに基づくルーティングが実装されている場合だけです。</li> <li>[highest-q] : 使用可能な要素のリストで、同一の最も高い q-value を持つ最初の要素を選択するよう指定します。</li> </ul>
Network	このサーバグループに関連付けられるネットワークの名前。
Elements	このサーバグループに関連付けられる要素。
Pinging Allowed	ping が使用可能か使用不能か。true または false のいずれかです。
Failover Response Codes	ネクストホップ サーバが要求を処理できないことを示す応答コード。有効な値は、500 ~ 599 までの範囲の数字です。 複数のフェールオーバー応答コードを追加するには、個々のコードをカンマで区切り、ダッシュ記号を使用して範囲を指定します。カンマとダッシュの後にスペースを入力する必要があります。

- ステップ 2** サーバグループを削除するには、次の操作を実行します。
- 削除するサーバグループの横にあるボックスをオンにします。
  - [Remove] をクリックします。
  - [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- ステップ 3** この変更内容を、最後にコミットしたときの状態に戻すには、次の手順を実行します。
- 元に戻す変更があるサーバグループの名前の横にあるボックスをオンにします。
  - [Revert] をクリックします。
  - [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- 

#### 関連項目

- 「[システム設定の管理](#)」
- 「[サーバグループの設定](#)」の目次ページに戻る

## サーバグループの追加

#### 始める前に

サーバグループを追加する前に、少なくとも 1 つのネットワークを作成し、設定する必要があります。[「ネットワークの設定」](#)を参照してください。

#### 手順

---

- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [Groups] を選択します。  
[Groups] タブが強調表示された状態で、[Server Groups] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Add] をクリックします。  
[Server Group (New)] ページが表示されます。
- ステップ 3** 情報を入力します。[表 5](#)を参照してください。
- ステップ 4** [Add] をクリックします。
- ステップ 5** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- 

#### 関連項目

- 「[システム設定の管理](#)」
- 「[サーバグループの設定](#)」の目次ページに戻る

## サーバグループの編集

### 手順

- 
- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [Groups] を選択します。  
[Groups] タブが強調表示された状態で、[Server Groups] ページが表示されます。
- ステップ 2** 強調表示されている、編集するサーバグループの名前をクリックします。  
[Group Settings] タブが強調表示されて、[Server Group: <サーバグループ名>] ページが表示されます。
- ステップ 3** 情報を編集します。表 5 を参照してください。
- ステップ 4** [Update] をクリックします。
- ステップ 5** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- 

### 関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「サーバグループの設定」の目次ページに戻る

## すべてのサーバグループの一般的な設定の参照と編集

次の手順を実行して、すべてのサーバグループに影響を及ぼす一般的な設定を参照および編集します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [General Settings] を選択します。  
表 5 に説明されているフィールドが含まれる、[General Settings] タブが強調表示された状態で、[Server Groups] ページが表示されます。

表 6 [Server Groups] ([General Settings] タブ) フィールド

パラメータ	説明
<b>サーバグループ要素の再試行</b>	
UDP	要素がダウンしたと見なされるまでに、指定されたプロトコルを通じてサーバグループ要素に要求を送信した場合の、連続して失敗した試行の最大回数。試行が失敗する原因は、タイムアウト、ICMP エラー、または障害応答の受信が考えられます。有効な範囲は 0 ～ 65535 です。
TCP	
TLS	

表 6 [Server Groups] ([General Settings] タブ) フィールド (続き)

パラメータ	説明
<b>グローバル ロード バランシング スキーム</b>	
Load Balancing Scheme	<p>すべての SIP サーバグループのロード バランス アルゴリズムを設定します。</p> <p>次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[call-id]</b> (デフォルト) : <b>call-id</b> によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。</li> <li>• <b>[request-uri]</b> : 要求 URI によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。</li> <li>• <b>[to-uri]</b> : To ヘッダー URI によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。</li> <li>• <b>[weight]</b> : 同じ <b>q-value</b> を持つ他の要素の重みに対して、その重みに比例して要素が選択されるよう指定します。この値を適用できるのは、重み付けに基づくルーティングが実装されている場合だけです。</li> <li>• <b>[highest-q]</b> : 使用可能な要素のリストで、同一の最も高い <b>q-value</b> を持つ最初の要素を選択するよう指定します。</li> </ul>
<b>グローバル ping</b>	
Pinging Allowed	ping が使用可能か使用不能か。イネーブルまたはディセーブルのいずれかに設定できます。
<b>経過時間後のデフォルトの障害要素の再試行 (ミリ秒単位)</b>	
Failover Response Codes	<p>ネクストホップ サーバが要求を処理できないことを示す応答コード。有効な値は、500 ~ 599 までの範囲の数字です。</p> <p>複数のフェールオーバー応答コードを追加するには、個々のコードをカンマで区切り、ダッシュ記号を使用して範囲を指定します。カンマとダッシュの後にスペースを入力する必要があります。</p>

**ステップ 2** 設定を編集するには、値を変更します。

**ステップ 3** [Update] をクリックします。

**ステップ 4** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。

#### 関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「サーバグループの設定」の目次ページに戻る

## サーバグループ要素の参照と削除

各サーバグループには、複数の要素がある場合があります。

### 手順

- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [Groups] を選択します。  
[Groups] タブが強調表示された状態で、[Server Groups] ページが表示されます。
- ステップ 2** このサーバグループに関連付けられている要素を参照するには、[Elements] の見出しで、[click here] をクリックします。  
[Elements] タブが強調表示されて、[Server Group: <サーバグループ名>] ページが表示されます。  
表 7 に説明されているフィールドが含まれるページが表示されます。

表 7 [Server Group] ([Elements] タブ) フィールド

パラメータ	説明
State	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[New] : 新しいレコード。コミット時に、アクティブな設定に追加されます。</li> <li>[Modified] : 変更されたレコード。コミット時に、アクティブな設定になります。</li> <li>[Deleted] : 削除されたレコード。コミット時に、アクティブな設定から削除されます。</li> <li>[Active] : アクティブなレコードとアクティブな設定。</li> </ul>
IP Address	サーバグループ要素のインターフェイス ホスト名または IP アドレスを指定します。
Port	サーバグループ要素で使用するポートを指定します。有効な値は 1024 ~ 65535 です。デフォルトは 5060 です。
Transport	サーバグループ要素の転送タイプを指定します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[UDP] (デフォルト)</li> <li>[TCP]</li> <li>[TLS]</li> </ul>
Nested Server Group	このグループに別のサーバグループを含めることができるかどうか。
Q-Value	サーバグループ内の他の要素に対する、サーバグループ要素のプライオリティを指定する実数を指定します。 有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルト値は 1.0 です。
Weight	重み付けに基づくルーティングを実装する場合に、サーバグループの IP 要素に割り当てられる割合を指定します。 有効な範囲は 0 ~ 100 です。デフォルトの重みは 0 です。

- ステップ 3** サーバグループ要素を削除するには、次の操作を実行します。
- 要素の名前の横にあるボックスをオンにします。
  - [Remove] をクリックします。
  - [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- ステップ 4** この変更内容を、最後にコミットしたときの状態に戻すには、次の手順を実行します。
- 元に戻す変更があるサーバグループ要素の名前の横にあるボックスをオンにします。
  - [Revert] をクリックします。
  - [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。

#### 関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「サーバグループの設定」の目次ページに戻る

## サーバグループ要素の追加と編集

### 手順

- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [Groups] を選択します。  
[Groups] タブが強調表示された状態で、[Server Groups] ページが表示されます。
- ステップ 2** 要素を追加するサーバグループに対応する [Elements] 見出しの下で、[click here] をクリックします。  
[Elements] タブが強調表示されて、[Server Group: <サーバグループ名>] ページが表示されます。
- ステップ 3** 要素を追加するには、次の操作を実行します。
- [Add] をクリックします。[Server Group: <サーバグループ名>] > [Element (New)] ページが表示されます。
  - この要素が、エンドポイントか、サーバグループかを、選択します。
  - 表 7 の説明のように、要素に関する情報を入力します。
  - [Add] をクリックします。
- ステップ 4** 要素を編集するには、次の操作を実行します。
- 強調表示されている、編集する要素の IP アドレスをクリックします。[Server Group: <サーバグループ名>] > [Element] ページが表示されます。
  - 値を変更します。
  - [Update] をクリックします。
- ステップ 5** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。

## 関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「サーバグループの設定」の目次ページに戻る

## SIP ping ネットワーク接続の一覧の参照

## 始める前に

少なくとも 1 つのネットワークを作成しておく必要があります。「ネットワークの設定」を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [SIP Ping] を選択します。  
表 8 に説明されているフィールドが含まれる、[SIP Ping] ページが表示されます。

表 8 [SIP Ping] フィールド

パラメータ	説明
Network	この SIP ping ネットワーク接続の名前。
IP Address	SIP ping への応答をリッスンする、インターフェイス ホスト名または IP アドレスを指定します。 <b>(注)</b> ホスト名を指定する場合、サーバでは DNS lookup を実行してホストを名前解決できることを確認します。その後、設定の保存時には、IP アドレスが使用されます。ホスト名を解決できない場合、「IP Address validation failed」エラーが表示されます。
Port	SIP ping に対する応答をリッスンする UDP ポート。有効な範囲は 1024 ~ 65535 です。デフォルト値は 4000 です。 <b>(注)</b> このポート番号は、サーバの SIP リッスン ポイントに対して指定されたポート番号とは異なることを確認してください。
SIP Method	SIP ping の要求方式です。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [OPTIONS] (デフォルト)</li> <li>• [PING]</li> <li>• [INFO]</li> </ul>
Ping Timeout	ping が失敗したと見なされるまでの、ping と応答の間隔の最大時間数 (ミリ秒) を指定します。指定できる最小値は 0 です。デフォルト値は 500 です。



表 8 [SIP Ping] フィールド (続き)

パラメータ	説明
Ping Type	SIP ping の ping タイプ。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Proactive] : up 要素と down 要素の両方に対して ping が実行され、この両方が同じ間隔で ping されるよう指定します。</li> <li>• [Reactive] : ping が down 要素でだけ実行されるように指定します。これはデフォルト値です。</li> <li>• [Adaptive] : up 要素と down 要素の両方に対して ping が実行され、この両方が異なる間隔で ping されるよう指定します。</li> </ul>
Up Element Ping Interval	(オプション。[「Ping Type」] で [Adaptive] を選択した場合にのみ使用可能) up 要素の連続的な ping 間隔を指定します。
Down Element Ping Interval	連続的な ping 間隔をミリ秒単位で指定します。アダプティブな ping の場合、この値は down 要素 ping 間隔を設定します。デフォルト値は 1,000 ミリ秒です。

- ステップ 2** SIP ping ネットワーク接続を削除するには、次の操作を実行します。
- 削除する SIP ping ネットワーク接続の横にあるボックスをオンにします。
  - [Remove] をクリックします。
  - [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。

#### 関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「サーバグループの設定」の目次ページに戻る

## SIP ping 設定の追加

#### 制約事項

- 各ネットワークには、1 つの SIP ping 設定のみを定義できます。複数の SIP 設定を作成するには、複数のネットワークを作成し、設定する必要があります。
- サーバグループ要素の SIP ping は、UDP の転送タイプでのみ追加できます。

#### 始める前に

SIP ping 設定を追加する前に、少なくとも 1 つのネットワークを作成し、設定する必要があります。「ネットワークの設定」を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [SIP Ping] を選択します。  
[SIP Ping] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Add] をクリックします。  
[SIP Ping Configuration (New)] ページが表示されます。

- ステップ 3** 情報を入力します。表 8 を参照してください。
- ステップ 4** [Add] をクリックします。
- ステップ 5** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- 

#### 関連項目

- [「システム設定の管理」](#)
- [「サーバグループの設定」](#) の目次ページに戻る

## SIP ping 設定の編集

#### 手順

---

- ステップ 1** [Configure] > [Server Groups] > [SIP Ping] を選択します。  
[SIP Ping] ページが表示されます。
- ステップ 2** 編集する SIP ping ネットワーク設定の横にあるボックスをオンにします。
- ステップ 3** [Edit] をクリックします。  
[SIP Ping Configuration: <ネットワーク名>] ページが表示されます。
- ステップ 4** 情報を編集します。表 8 を参照してください。
- ステップ 5** [Update] をクリックします。
- ステップ 6** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- 

#### 関連項目

- [「システム設定の管理」](#)
- [「サーバグループの設定」](#) の目次ページに戻る